

東北品質工学研究会報告

3月23日、第159回定例会が日本規格協会東北支部において開催された。参加者は15名であった。事務的内容を検討した後、以下の事例について議論した。

(1)非抜歯矯正における診断と予測—評価方法の相談— 柱 博志 アルプス電気(株)

知り合いの矯正歯科医から、歯列矯正の効果の解析の相談を受けた。品質工学の立場から、役に立つ評価方法を検討していきたい。現在は、歯の移動量が計測されている。また、レントゲンで歯の並び、矯正前後の頰椎の変化などのデータがある。これらのデータを活用して、どのようなことができるか検討している。以下のような質疑があった。

- ・まず、何をやりたいか目的を明確にすべきだ。
- ・T法の適用が考えられるが、単位空間をどう設定するかが問題。患者の最初の状態が単位空間か。
- ・計測技術として、顔の骨格の変化がとらえられる三次元計測技術とか断層撮影装置などが必要になるのではないだろうか。

(2)ラッピング工程のパラメータ設計 宇井友成 アルプス電気(株)

直交表 L_{18} によるラッピング工程のパラメータ設計で利得の再現性が得られなかった。データ解析に直交多項式を用いる工夫をすることで有用な情報が得られたとの報告があった。